

# 多くの住民が反対している羽村駅西口区画整理予算を削り、市民の子育て支援、健康、福祉を守る仕事にまわすべき

## 17年度羽村市一般会計決算認定に反対・・9月定例議会報告

9月議会で中原議員が行った討論の要旨を紹介します。

格差社会と貧困の広がり大きな社会問題となっているなか、庶民に大增税、社会保障の切り捨ての一方、大企業に減税と、ますます、格差の拡大がすすめられている。こうしたときこそ、羽村市が市民の暮らしを守る役割を果たすことが求められている。

ところが昨年策定された羽村市行財政改革推進プランではさらに市民負担増をねらい、一方では住民の多くが反対している羽村駅西口区画整理事業を強行に押し進めようとしている。

西口区画整理は17年度一般会計から1億6千万円もつぎ込み、さらに2億6千万円も借金をして事業を進めている。西口区画整理事業は、関係住民にとっては土地がただでとられる、足りない人はあとで清算金を取られる、移転による建て替えで新たな借金を余儀なくされるというように大きな犠牲を押し付けられるもので、これを住民の合意なしに押しつけるのは、市民の基本的な人権、財産権を侵害することになる。総事業費355億円の巨額な投資を行うことは市民全体にとっても、公共料金値上げや福祉、教育、市民サービスの切捨てで犠牲が押し付けられることになる。

日本共産党は17年度予算案に対して西口区画整理の予算を削り、子育て支援、市民の健康、高齢者の介護、障害者の福祉を充実させる修正案を提出した。

毎年の予算修正案で提案してきた乳幼児医療助成制度の所得制限撤廃は18年度から実現した。しかし、家庭福祉員等利用者補助は、昨年三月議会で陳情が採択されたにもかかわらず、無視されている。

子育て世代の一番の願いは、市のアンケートでも明らかなように、経済的負担を軽くすること。私たちが提案してきた、幼稚園保護者負担軽減補助金の増額、中学校修学旅行の補助を元通り3万3千円出す、さらに高校入学時奨学金を増やすことなど子育て世代への経済的支援に取り組むべき。

フリーター、派遣社員など不安定雇用が増え社会問題になっているとき、若い人への無料健康診査の拡大はますます必要である。

以上、この17年度の羽村市の財政運営については、西口区画整理という大規模な開発にお金をつぎこみ、子育て支援、安心できる老後、そして生活支援、健康を守るなど市民の強い願いを後回しにする財政運営が行われたということが明らかであり認定に反対する。

### モズの高鳴き

9月頃から、市内のあちこちでモズが「キキキ」と盛んに鳴いています。モズは他の鳥より早く2月頃から繁殖するため、9月頃から縄張り確保にやっきとなります。オスが他のオスを追い回したり、10月半ばに北の国から渡ってくるジョウビタキを追っ払ったりします。写真は郷土博物館近くの河川敷に設置してある牛柵にとまって盛んにもう一羽を威嚇しているところです。なおモズは「百舌」と書くように他の

鳥のまねがうまく、多摩川では、メジロやセキレイ、シジュウカラのまねをしているのをききました。

「牛柵」は武田信玄が創案したともいわれていますが、「牛柵」「聖牛」などの「伝統的河川工法」は、鉄とコンクリートの近代工法と異なり、自然の素材を用いているので、環境に配慮した川にやさしい河川治水工法として注目されています。

